

精神障害を地域で支える

Community support for mental disorders

本誌においては、発達障害や高次脳機能障害、認知症に関する特集、あるいは職業リハビリテーションの特集の一部で精神障害を取り上げてきましたが、精神疾患を主な対象とした特集は2016年以来となります。本特集では、精神障害のある方々の地域での生活をどのように支えていくのかという視点で企画しました。精神科医療の現状から、地域での支援体制、ピアサポート、就労支援など、幅広いテーマで執筆していただきました。日ごろは必ずしも精神障害のリハビリテーションにかかわっていない方でも、興味・関心をもっていただける内容となっています。

統合失調症患者の退院支援と地域移行—その現状と課題 安西信雄氏ら 833

統合失調症の有病率はどの国でも人口の約0.7～1%とされ、それほどまれな疾患ではない。精神障害を地域で支える課題においては、統合失調症を中心とする退院困難患者の退院支援や地域生活支援が依然として重要な課題である。著者らが関与した「退院支援実践ガイド」に基づき、具体的な支援方法を紹介していただいた。最新で効果的な治療の提供だけでなく、定期的に行うカンファレンスや多職種チームでの支援などが重要であることが強調されており、まさにリハビリテーションそのものであると考える。

横浜市における横浜市総合保健医療センターの役割と機能 —精神障害者の地域での暮らしを支える 飯塚英里氏 841

横浜市に設置された認知症を中心とする精神疾患と生活習慣病を対象とした施設における実践的な取り組みのレポートである。精神障害者の地域生活を支える制度としてさまざまなものがあるが、国や自治体独自の制度がよくいえば重層的、悪くいえばわかりにくく使いにくいものとなっている。障害種別や年齢にかかわらず、種々の相談ができる窓口が期待される。目の前の支援一つ一つに取り組むことが、より大きな地域全体の課題の解決につながり、個々の障害者へ還元されるというよい循環を生み出すことになると考える。

ごく当たり前の生活を実現するために 増田一世氏 849

著者らが運営しているやどかりの里における経験から、精神障害のある人たちが地域で暮らすために何が必要か、求められる支援や法制度のあり方などを執筆していただいた。生活拠点での支援で重要なことは、暮らしの場の確保、健康を守って暮らすこと、孤立しないことである。そのためにグループホームの利用や食事の確保、支援者の確保などが必要であるが、経済的問題や家族の問題なども多い。一方で、ある限られた福祉の社会の中で暮らしていると、生活はしやすいが多様なネットワークの中での暮らしとはならないかもしれないことに留意が必要である。

ピアサポートの可能性—当事者研究とピア SST の経験から 向谷地生良氏ら 857

精神保健医療の動向とピアサポートの歴史を概観し、ピアサポート活動の果たしてきた役割と意義、現状と課題などを解説していただいた。他の論文でも触れられているが、「リカバリー」の概念の登場は重要であり、精神障害領域だけでなく他の分野のリハビリテーションにおいても改めて参考にすべきことが多いと考える。ピアサポート（当事者自身による相談活動）は、決して当事者と専門家の対立を示すものでも促すものでもない。ピアサポートの意義は大きい。現在あるいくつかの課題についても言及されており、考えさせられた。

就労支援 相澤欽一氏 865

ハローワークにおける障害者の就職件数はこの20年間に急増しており、なかでも精神障害者の件数は30倍以上になっている。法定雇用率の変更などによって、企業の関心が高まったことが要因の一つと考えられる。しかし、ハローワークから就職した精神障害者の4割近くが3か月未満で退職しているというデータもあり、就職のための支援だけでなく、職場定着支援や離転職後の生活安定の支援も重要である。就労支援を実施する際の留意点について詳細に解説していただいたが、実際には精神障害に限らず身体障害でも障害のない人にとっても重要な視点である。

お知らせ	第23回臨床筋電図・電気診断学入門講習会	847
	慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 第33回ADL評価法講習会	855
	第5回日本安全運転・医療研究会	863
	第50回車いすSIG講習会（オンライン開催）	870
	第43回総合リハビリテーション研究大会	909